

1. 教育の責任

2020、2021、2022、2023 年度の担当科目は(表1)の通りである。

科目名	開講年 度	学期	対象学 年	種 別	受講者 数	備考
図画工作	2020	前期	1年生	演習	73名	3グループ
	2021	前期	1年生	演習	66名	3グループ
	2022	前期	1年生	演習	70名	3グループ
	2023	前期	1年生	演習	51名	2グループ
造形表現の探 究	2020	後期	1年生	演習	73名	3グループ
	2021	後期	1年生	演習	66名	3グループ
	2022			演習		開講なし
ナチュラルア ート	2020	前期	2年生	演習	16名	選択希望者
	2021	前期	2年生	演習	26名	選択希望者
	2022	前期	2年生	演習	18名	選択希望者
	2023	前期	全学年	演習	26名	選択希望者
保育内容表現	2022	後期	1年生	演習	70名	4クラス ※教員3名
子ども文化演 習 B 劇	2020	後期	2年生	演習	68名	4クラス ※教員3名

	2021	後期	2 年生	演習	71 名	4 クラス ※教員 3 名
	2022	後期	2 年生	演習	64 名	4 クラス ※教員 3 名
総合演習	2020	通年	2 年生	演習	68 名	4 クラス ※教員 4 名
	2021	通年	2 年生	演習	72 名	4 クラス ※教員 4 名
子ども学演習Ⅰ	2022	前期	1 年生	演習	70 名	4 クラス ※教員 4 名
子ども学演習Ⅱ	2022	後期	1 年生	演習	70 名	4 クラス ※教員 4 名
キャリアアップセミナーⅠ	2022	前期	1 年生	演習	70 名	4 クラス ※教員 4 名
キャリアアップセミナーⅡ	2020	通年	2 年生	演習	68 名	4 クラス ※教員 4 名
	2021	通年	2 年生	演習	72 名	4 クラス ※教員 4 名
	2022	後期	1 年生	演習	70 名	4 クラス ※教員 4 名
	2023	前期	2 年生	演習	49 名	4 クラス ※教員 4 名

(表 1) 2020、2021、2022、2023 年度 担当科目詳細一覧

(1)入試広報委員会

年間を通してオープンキャンパスやホームページ等を含めた広報関係から、入試業務までの企画・運営を行う委員会になる。今年度行った業務としては月1～2回行われるオープンキャンパスの取りまとめ及びワークショップの運営・準備。ホームページ更新関係、広報用書類や学内で企画されたLINEスタンプの編集等がある。入試関係においても事前に各種選考や面接等、多岐に渡り学内の入試広報業務が円滑に行えるよう、業務を行ってきた。今後の展望としては、ホームページ内容の充実のため、写真等の記録の強化や、より良いデザインを行い、視覚的感覚的にもより良く親しみを持っていただけるようなホームページを構築していきたい。その他にも学内外に発信していくフライヤー等、印刷物のデザインやプランニングにも尽力していきたいと思う。

(2)教務委員会

授業出欠の把握及び、欠席多数の学生における対応や、改革総合支援事業補助金への対応、試験関係の取り締まりを行う。学生達の学習環境の向上を図り、進路をはじめとした、様々な問題解決に向けてよりスムーズに解決できるように尽力していきたい。

(3)図書・紀要委員会

学内所蔵の書籍等の管理や図書関係の広報物の作成、紀要の編纂及び発行業者の選定を行ってきた。今後の課題としては紀要のペーパーレス化における動きを推進して行くべく、様々な対応を行っていきたい。

(4)ネットワーク委員会

SNSの活用・効果の分析/ICT教育の活用と普及を行うため、EduNaviというアプリケーションを活用し、授業の効率化及び最適化を図ることを目的として活動を行う。

(5)SDGs 作業部会

学内のSDGs教育を行うにあたり、学びやすい環境はどのようなものか検討し、実践していく。

2. 教育の理念

図画工作や造形表現の授業では、制作のための単なる技術的な指導ではなく、学んだ技術や活動を活かし、いかに子どもたちと知識や体験の共有が行えるかを実践的に学び、多角的な視点を身につけることが求められる。

教科書などの資料などから学ぶことも数多くあると思うが、実際に体験することにより教える際のコツや、危険などを事前に配慮する能力などを養い、教育者としての最低限の知識を養う。

3. 教育の方法

(1) 図画工作

図画工作の授業については、まず、基礎的な技法の習得から始まり、身の回り個々の柔軟な発想、更には周囲における様々な配慮を培うことに対して重きを置いている。基礎的な技法習得に関しては、絵の具やクレヨンの使用方法（絵の具の混色、クレヨンと絵の具の複合技法）等行う。次にハサミや糊の使いかた、様々な素材の基礎知識など、現場に出た時に、不自由なく教えることができるよう実践的に教育を行う。どの時間に対しても成功体験や失敗体験を実感させるように努め、個々が行った行動がどう良かったのか、どう悪かったのか、意識的にしっかりと認識させ、成長を促せるよう、コミュニケーションをしっかりと行うことを心がけている。

■標準的授業進行

- ① 毎回の授業レジュメとなるプリントを配布し、口頭でのレクチャーを踏まえ、文章によって内容理解をさせる。
- ② レジュメを読み上げながら口頭で説明し、図解などを板書して要点を示す。
- ③ 学生たちの見える場所で実際の制作過程を実演し、文字では理解が難しい部分の内容把握を徹底する。
- ④ 学生の理解と意欲を確認して、終了時間を把握させ、個々に制作ペースをイメージさせながら制作活動に入る。
- ⑤ 教室内を巡回しながら、個々にアドバイスと、質問に応じる。少しでもイメージに違和感のある学生には綿密なアドバイスを施すように心がける。
- ⑥ 完成した作品を鑑賞しながら、良い点(学生の様子を見極めながら良い点と改善方法を個別に指摘する。)を評価する。

(2) ナチュラルアート

ナチュラルアートの授業では山村学園短期大学敷地内にあるたくさんの自然を使用した授業展開を行っている。2年生の選択科目ということもあり1年次の図画工作、造形表現の探究では学ぶことのない、一歩踏み込んだ創作活動をテーマとして行っている。身近ではあるが専門的な知識を使用し、使い

方によっては子供達相手でも大人相手でも楽しめる授業を作り出せる可能性を秘めた課題授業を全3テーマで行っている。

1つ目は風船を石膏で型取りし、卵のような物体を制作し、それを各々思った形に割る。できた形に校舎内で集めた草花を押し花にし、それを卵型の物体の表面に装飾的に貼り付けていく。完成した物体の中に電飾を施し、作品を完成させる。

2つ目は、校舎内にある木の枝や落ち葉、木の実などを集め、それを各々好きな形に加工したのち、何かしらの生物のイメージに見立て、台座の上に生物標本の形式で作品を制作していく。完成した『空想生物標本』には生き物の名前をつけ、展示を行う。

3つ目は感光性のある特殊な溶剤を作り、それを塗布した紙などに、校舎等から採取してきた葉や花などを置き、太陽光に晒すことでその形が紙に焼きつく、サイアノタイプと呼ばれる古典技法を用いた授業を行った。

これまでの3つの課題を行うことで、校舎内の草木や陽の光、風土を活かした作品作りも行えるという概念を身につけさせることを行った。

4. 教育の成果、評価

本学では毎年前期末と後期末に学生に対して授業アンケートを実施しており、ここでは2023年度の前期と後期の授業アンケートの結果の一例として、「**図画工作**」、「**ナチュラルアート**」の結果を示す。このアンケートでは、問1：学生自身の取り組み、問2：授業の内容、問3：授業の進行方法、問4：総合評価で、それぞれ5点満点でその評価を行なっている。

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.60
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.40
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.60
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.50
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.00
問2 授業内容について	平均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.88
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.94
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.90

4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.90
問3 授業の進め方について	平 均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.98
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.96
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.85
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.98
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	5.00
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.96
問4 全体的評価	平 均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.90

表 (2-1) 2023 年度の前期授業アンケートの結果(図画工作)

アンケート結果の考察(図画工作)

問1から問4の結果を考察すると、私語を謹んで授業を受けたかといった項目の数値が低く感じる。図画工作において授業内での会話を容認はしているが、会話している本人がそれを私語ととるか、制作に必要なプロセスととるかの認識づけを図るのが今後の課題かなと感じる。会話の中にも制作のヒントは紛れていると私は感じる。これを学生個々が意図的に認識し、より良い制作環境とすればより建設的でクリエイティブな時間になるかと考える。今後はこの認識づけに尽力していきたいと思う。

全体を通して、学生達は意欲的に授業に取り組んでいる様子が窺える。ただ簡単に学べるのではなく、学びやすさの中にも多少難しい内容を織り交ぜることで、学生個々が自ら考え、主体的に学び行動する癖をつけさせながらも図画工作に対する知識やアイディアの幅を広げることができた。図画工作に苦手意識を持つ学生も多々見受けられたが、最終的には自分なりの楽しみ方、及び学び方を見つけ、有意義に時間を使い、建設的な学びを行なっているように見えた。自由記述欄を見る限り、工作に対するモチベーションは高く感じる。どの記述にも工作が楽しく、もっと行いたいと言ったものが多いため、課題のレベルや方向性としても学生個々が楽しんで学ぶことができているのではないかと思う。なるべく学生の作品の良いところを探して褒めることにより、小さな成功体験を蓄積させ、制作意欲の向上にも働きかけるといった事を積極的に行なっているのだが、その効果が

出ているコメントも多く見受けられる。今後の課題としては、工作の方向性として得意不得意のジャンルは必ず存在すると思うので、なるべく全員が楽しく学べる課題作り及び素材研究を引き続き行なっていきたいのと、より実践的な課題を設定し、応用力のある学生を育てるべく、多角的な授業展開を行なっていきたいと思う。

問1 あなた自身の、この授業への取り組みについて	平 均
1, 欠席または遅刻・早退をせずに受けましたか。	4.42
2, 私語を慎んで授業を受けましたか。	4.37
3, 授業の要点を配付プリント等にとっていましたか。	4.63
4, シラバスは授業内容や評価の基準等を知る上で役に立ちましたか。	4.63
5, 予習・復習及び技術向上のための努力をして授業に臨んでいましたか。	4.63
問2 授業内容について	平 均
1, 授業内容は、シラバスに示されていた学習目標と合致していましたか。	4.79
2, 授業内容のレベルは適切でしたか。	4.79
3, 授業の進度(速さ)は適切でしたか。	4.74
4, この授業を通じて知識が深まった、能力が高まったと感じますか。	4.79
問3 授業の進め方について	平 均
1, 教員の話し方は明瞭で聞き取りやすかったですか。	4.84
2, 授業の説明の仕方は分かりやすいものでしたか。	4.84
3, 授業中の板書やプロジェクター(パワーポイント等)の利用は適切でしたか。	4.84
4, 教材や資料はよく準備され、うまく活用されていましたか。	4.79
5, 教員は学生の質問に適切に対応し回答していましたか。	4.84
6, 学生の理解を深めよう、能力を高めようとする工夫や努力が感じられましたか。	4.84
問4 全体的評価	平 均
全体的に見て、この授業に対するあなたの評価はどの程度ですか。	4.84

表（2-2） 2023 年度の前期授業アンケートの結果（ナチュラルアート）

アンケート結果の考察（ナチュラルアート）

図画工作と比較をしてこちらでは会話（私語）を上手くコントロールし、制作に必要なプロセスということを認識し、制作に活かしていることを感じる。こう言った、会話や動作なども授業内では意味のあるものにし、どれをとっても学びに繋がる授業展開を引き続き行なっていきたいと思う。

全体的に図画工作の応用の様な感覚で授業展開しているが、学生の反応を見てみると楽しく取り組んでいる様子が窺える。難しい中にも達成感と未知の工程を織り交ぜながらも、実験的に実習を行うといったことが学生達の学習意欲を高めることができたのではないかと思う。引き続きこのプロセスを行い、学生の知識の幅を広げる事ができたら良いか考える。自由記述を見る限り、楽しく課題にチャレンジしている様子が窺える。普段あまり使わない道具だが、見たことやそれによる生産物には関わった事がある等、知らないなりに知っているくらいの物に着目して、あえて使用する授業展開が学生達の知的探究心を起こすことができたのでは無いかと思う。引き続き、楽しんで学べる授業展開をよりスムーズに行えるよう、素材研究を行なっていきつつ、より様々な制作体験が行えるよう、課題を細分化していくことも視野に入れ検討していきたい。

以下、教員に本学教員による参観記録になる。

（1）図画工作

- ・これまでの授業で習得した技法を使って、CD でコマを作るという制作を行っていた。技法のみならず、それを生かした遊びに転換している内容となっていて、保育にもつながる授業内容だと感じた。2 年間の学びは短い、保育現場につながる表現系の授業の内容を考えたり、授業間の連携を図り学びが繋がって行くことや、内容重複などの時間の無駄なく学べることが重要だと改めて感じる。しかし、保育者自身の感性を磨くという点では、アートという視点で様々な活動を行う意義も大いにある。本学の学生の性質も鑑み、何をどのように教授していくかを考えることは遊んで学ぶの具現化・創造につながると考える。

新しい生活様式という点では、図画工作分野は個人の集中の中にある遊びも多いので、比較的対応しやすい分野であるか考える。お道具袋が一人一つあることも道具の共有を必要とせずに良い仕組みだと思う。

- ・本時の授業テーマは、「CD コマを作ろう」で、参観時はコラージュやデカルコマニー、パチック、スクラッチなどの図工の基本的な技法を使って、CD(ディスク)を使って華やかなコマを賑やかに作っていました。

まず、CD コマの意匠に学生達の自由な創意工夫を引き出せるように、教員が各種の技法に必要な材料や道具等をあまねく周到に準備している点は参考になりました。また、授業のレジュメに、活動（授業）のねらいが「これまで学習した技法が上手く活用できているか、一手間加えることにより、新しいものを作れることを知る」などと明記してあり、このことで学生にとっては学びの焦点化が容易になり大変良いと感じました。

（２）ナチュラルアート

- ・『石膏でランプ作り』制作する題材や素材などがよく考えられていると感じた。作品はとても素敵で、制作中の学生も集中していたのと、楽しそうな表情が印象的だった。作品の豪華さから制作工程の難易度が気になったが、作り方を伺うと、小さな子どもたちと一緒に作れそうな感じで、自分でも挑戦したい気持ちになった。

また、酒井先生が、学生ひとりひとりに声掛けをしながら作業工程のアドバイスをしており、学生も相談しやすそうに感じた。

作品選びや工程、学生が今後この授業の内容をどう発展させていくのか等、共通する部分が多いのでとても勉強になった。

（３）授業参観記録からの考察

以上の授業参観記録から自身の授業における考察を行っていく。授業の事前準備や授業計画に触れられている点が多く、自身の授業テーマとして、分かりやすく、学生がこれまで学んだことを活かせるような授業を行っていくという点においては、ある程度は達成できたのではないかと感じられる。他にもコミュニケーションを綿密に取り、学生個々の良さを引き出す事、及び、学生の授業内で抱える学びの進捗状況や不安などもある程度は行えたのではないかと感じる。

ただし、今年度は新型コロナウイルスの関係もあり、授業内での学生間の距離感などをもう少し検討する必要があったのではないかと考えられる。座席はもちろんのこと、授業課題の選定及び、授業中の学生間のコミュニケーションについても課題が残るのではないと思う。記録にもある、お道具箱がひとつ

ひとつ用意されているというものは昨今の状況からしても、とてもプラスになる事ではないかと思う。事前に感染対策も行い、各自が楽しく作品制作及び学びの場が展開できたら良いと感じる。

5. 教育の改善に向けた今後の目標

(1) 図画工作

・短期的目標

話し方やそのスピード、ジェスチャーも取り入れながらの、より良く理解が及ぶ、視覚的・感覚的にも理解のしやすい授業への改善を行う。資料などの配布物の見易さも考え、誰が見ても分かり易い資料作りを行う。

短期的に成果が出つつも、しっかりと技法理解が行える方法や教え方を研究開発する。

・長期的目標

ものつくりを嫌いにならない、誰もが楽しんで作品制作を行えるよう、教育環境及び指導方法の教育研究を行う。

教えた技法や方法論から、学生達自ら新しい技法を生み出し、楽しく授業展開が行えるよう、その手がかりになるための授業を行えるようにする。

良質なコミュニケーションを取ることを心がけ、学生達の不安や疑問などを常に汲み取れるよう気配りを徹底する。

6. エビデンス一覧

(1) 各科目シラバス（図画工作、ナチュラルアート、保育内容表現）

(2) 授業時配布プリント（図画工作、ナチュラルアート、保育内容表現）

(3) 試験問題（図画工作筆記試験、ナチュラルアート筆記試験）

(4) 授業アンケート、授業参観記録